

JARL

香川クラブ報

No. 338 平成16年12月15日



J A 5 Y D E

忘年会のご案内

何かにつけ激動の 2004 年でしたが、皆さんこの一年はいかがでしたか？

新潟、福井の大水害に始まり、次々と襲ってくる大型台風によって香川県はもちろん全国各地に甚大な被害をもたらせ、浅間山の噴火・中越大地震と今年は一年中自然災害に泣かされました。クラブ員及び知り合いの方々にも被害に苦しめられた方がたくさんおられると思われますが、慎んでお見舞い申し上げますとともに一日も早い復興を願わずにはおられません。

一方、日本の象徴といえ皇室において紀宮さまのご婚約というおめでたがあり、先日娘を嫁がせた一人の親として、少しは心が和やかになったような気がします。

先のアメリカ大統領選挙では「ブッシュ氏」が再選され、イラクを始め対テロ政策が一段と強化されます。ますます混迷の世界情勢が懸念されます。ビジョンもなくただアメリカ追従の日本政府の行き先が案じられ、イラクに派遣されている自衛隊員も含めてテロによる第三、第四の日本人被害者が出ないことを祈るばかりです。

スポーツでは「アテネオリンピック」において日本人の大活躍でメダル獲得数が大幅に増え暗いニュースが多い中、久しぶりに明るい話題に一喜一憂したものです。

しかし、プロ野球では選手やファンを無視した経営者理論だけを先行させ、ついに選手会がストライキに突入という事態を招きました。「雨降って地固まる」ではありませんが 50 年ぶりに新球団が誕生し、来季からの活躍を期待せずにはおられません。四国における「独立リーグ」も暖かく見守りたいと思います。また、「イチロウ」が年間安打数の世界新記録を達成と言う明るい話題もありました。プロバスケットボールでも「田臥勇太」が日本人初の NBA サンズ入りし早速活躍しています。小さな身体で巨人を相手に大活躍している姿を見ますと痛快としか言いようがないですね。スポーツの世界では堂々と日本をアピールしているのに政府・政治の何と情けないことか・・・。

ところで、残すところ今年も後わずかとなりました。このクラブ報が発行される頃には「香川マラソンコンテスト」も終わり、年末の諸行事に忙しくなることでしょう。

クラブとしては焼肉パーティーや移動運用を始め、各種コンテストや ARDF に積極的に参加し実りの多い年でした。

残る行事は忘年会のみとなりましたが、先のクラブミーティングで下記のとおり決定されました。年末のお忙しい時期ではありますが、万障お繰り合わせの上ご参加されますようご案内申し上げます。

記

日 時：12月25日(土)
19:00から

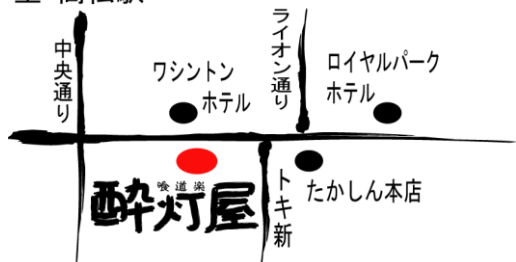
場 所：「喰道楽 酔灯屋」
高松市瓦町1丁目10番地15号
TEL 087-812-6188

会 費：男性 5,000円
女性 4,000円

申し込み：締め切り12月20日(月)厳守

連絡先：JH5EZB
JE5PBO

至 高松駅



冬のフィールドミーティング

信州スキーツアーと温泉旅行のご案内

今冬も昨シーズン同様にスキーツアーを企画しました。

「スキーは苦手だが温泉があり一杯が飲めるなら」と言う方も大歓迎です。

雄大な大自然と信州スキー場の大パノラマを背景にクラブ会員相互の親睦と、心も洗われるような白銀の世界で日頃のストレスを発散しましょう。

たくさんの会員のご参加をお願いします。

なお、クラブ会員の家族はもちろん、クラブ会員以外の方の参加も結構です。

ぜひ、奮って参加しましょう。



日時：平成 17 年 2 月 4 日(金)～2 月 7 日(月)

行先：信州方面スキー場(斑尾高原など)

費用：ツアー代(バス往復, ホテル宿泊(夕朝食付), リフト券)で約 3 万～3 万 5 千円
その他、飲物代, 昼食代, 土産代などが別途必要です。

行程：

2 月 4 日(金) 21:30 JR 高松駅前 集合
夜行バス
2 月 5 日(土) 10:00 頃 スキー場ホテル前 到着
休憩, 夕方までスキー, 夕食, ホテル宿泊
2 月 6 日(日)
朝食, 夕方までスキー, 帰り支度
18:00 頃 スキー場ホテル前 出発
夜行バス
2 月 7 日(月) 6:00 頃 JR 高松駅前 帰着

※ 旅行会社のスキーツアーにまとめて申し込みますので、参加人数などによってスキー場および費用が確定します。

申込締切：12 月 15 日(水)

状況によっては定員オーバーで受け付けてもらえない場合もありますので
出来る限り早めに申し込まれることをお勧めします。

連絡先：J H 5 W M N 山口
J F 5 I C A 向井

クラブミーティングの報告

11月10日(水)恒例のクラブミーティングが開催されました。

冒頭、天野会長が今年の台風による被害についてお見舞いを含めてあいさつがあり、引き続き議題に入りました。

まず始めに、恒例の忘年会について打合せがありました。日程についていろいろ検討した結果、「昨年と同じ時期頃が良いのでは」という意見でまとめ、会場以外は概ね昨年どおりとなりました。なお、会場については次回クラブ報発行までに検討するという事で保留となりました。(その後1ページのとおり「酔灯屋」に決定しました)

続いて冬のフィールドミーティング「スキーツアーと温泉旅行」について話し合いました。「2月の第二日曜日が土曜日と建国記念の日を含め3連休で、今からの計画では間に合わないしツアーそのものが組まれていない」ということで昨年より1週間早め第一日曜日を中心に計画する事になりました。スキー場やその他詳細については次回クラブ報発行までに検討することになりました。(その後2ページのとおり決定しました)

次にJARL香川県支部主催の「香川マラソンコンテスト」の参加について検討され、例年のとおり「JA5YDE/5」として参加することに決定しました。

コンテストの日程と運用者は下記のとおりです。クラブ報が発行される頃にはコンテストも終盤になっていると思いますが「JA5YDE/5」の声が聞こえていましたら、ぜひサービスしてください。

また香川県におけるアマチュア無線の発展のため一人でもたくさんの参加(ログの提出)をお願いします。

最後に、クラブのQSLカードについて検討しました。先日まで、「クラブ結成50周年記念カード」を発行していましたが、現在手持ちは全く無いという状況です。今の時点で未発行はないものの今後の発信時に発行できないことになっており、早急に作成しなければならないのですが、ただ白紙にレポートなどの必要事項を記載するだけでは味気ないので写真又はイラストを裏に印刷する事で決定しました。「JARL香川クラブ」に相応しい写真などあればということになりました。良いものがありましたら、今年中にJH5LYWまでご連絡ください。5,000枚ほど印刷するつもりです。また、個人的にクラブのカードと同じ物が作成したいという方がおられましたら、それも連絡をお願いします。



その他にクラブ報の原稿について依頼し、また先日施行された「自動車運転中における携帯電話やアマチュア無線機器の取り扱い」についてJA5TFJ横田OMから話があり、いつものように雑談をして解散となり楽しい一時を過ごしました。残念ながら今回参加できなかった方も次回はぜひ参加していろいろ話をしましょう。

香川マラソンコンテスト運用計画

日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
運用者	JA5TFJ	JJ15XTP	JG50BX	JJ15VWA	JF5ICA	JR5EHB	JH5LYW								

＜ミーティング参加者＞ JA5AHM/JA5TFJ/JH5LYW/JH5WMN/JH5PMZ/JR5EHB/JR5GLO
JE5PB0/JF5ICA/JG50BX/JJ15VWA/JJ15XTP

自動車運転中の携帯電話とアマチュア無線

J A 5 T F J

クラブの皆さん、平素は固定・移動でアマチュア無線局の運用にご活躍のことと思います。

さて、近年飛躍的に使用台数が伸びてきた携帯電話とアマチュア無線について記述します。

今や、あらゆる階層に使用されている携帯電話は、平成 15 年度末加入台数 8,200 万台となっています。この手軽で便利な携帯電話ですが、自動車等運転中の使用によることが原因となる交通事故が多発し、平成 15 年度中の人身事故件数は 2,600 件と大きな社会問題となってきました。そこで、道交法では自動車等運転中の携帯電話等使用で交通の危険を生じさせた場合の罰則(H14.6.1 施行)が制定されました。しかし依然自動車等運転中の使用が減少せず、この度の道交法改正では「自動車等運転中の携帯電話使用(通話あるいはメール等画面の注視)だけで罰則の対象となりました。因に、違反した場合の反則金は普通車・自動二輪 6,000 円、原付 5,000 円と反則点数 1 点が科せられることとなりました。(道交法第 71 条 5 号の 5、120 条 1 項 11 号関連)

そこで、これに関連してアマチュア無線の運用ですが、アマチュア無線の機器でも携帯型(ハンディ・トランシーバー)は同様の対象になります。法律の言う無線通話装置とは「携帯電話・自動車電話・トランシーバー型無線機器等で、その全部又は一部を保持しなければ送信及び受信の何れも行うことができないもの」と規定されており、送信マイクと受信スピーカーの両方が一体となった装置で、両方を手に持った状態で使用する装置とされています。従って、タクシー等無線や消防・警察・アマチュア無線の車載機のように車体本体に取り付けられたスピーカーから音の出る装置或いはハズフルタイプの装置は対象外とされています。アマチュア無線でもトランシーバータイプ(イヤホンで受信し、送信のみのプレスができるものは除く)のものを手で保持し、本体を耳に当てて使用すること等が対象となりますので、無線機の運用には十分ご注意ください。その理由として、運転中携帯電話機を手に持って使用することは

- 片手運転となる事により運転操作が不安定となり事故誘発につながる。
- ディスプレイ画面の注視は、その間視線が前方から外れ運転に必要な周囲の状況に対する注意が阻害される。

という点から制定されたものです。カーナビゲーション装置に表示された画面の注視については、今回の罰則の対象からは除かれています。画面注視によって「交通の危険を生じさせた場合」は従来の罰則適用の対象となります。また、ここでいう「運転中」とは、交差点の信号待ちや道路渋滞で車の停止状態でも、いつ走行状態に変わるかも知れないということから、この様な場合でも使用しないよう安全運転指導されています。(ただ厳密に言うと法律では走行中の使用が対象で、停車中の使用は除外されています)しかし、前述の理由から、この様な短時間の停車状態であっても使用は避けるようにして下さい。

例外として走行中でも使用が許されるのは

- 傷病者の救護のため緊急止むを得ず行う通話
- 公共の安全維持のため緊急止むを得ず行う通話等が使用禁止の対象から除外されています。

自動車や二輪車等の運転中に通話等を行なう事は通話の内容と運転に必要な情報把握の両方に神経が分散され、本来の「運転中は運転に専念し、交通事故防止に万全の注意を払う」という運転者の基本的遵守事項であることに鑑み、できれば運転中は携帯機器の電源を切るとか、マナーモードにする。あるいはハズフル装置での使用が望ましいとされています。

皆さんも運転中の無線機器の取り扱いや運用とドライビングについては、安全対策と事故防止にくれぐれもご留意いただき、FB なハムライフをお送りください。

全日本 ARDF 競技大会の成績

紅葉も進み、澄み切った青空の下 2004 年度全日本 ARDF 競技大会が、岡山県真庭郡にある蒜山高原において実施されました。

往復の道中も含め、台風 23 号の爪跡がいたところで見受けられ、大会準備に携わった関係者の苦労は多大であったのではないかと推測されました。

心配された天候も絶好の大会日和に恵まれ、気温もほどほどで申し分の無い

ものでしたが、至る所で大木が根こそぎ倒壊していたのには驚きました。

また、前日には中越大地震が発生し、新潟方面からの参加者は地元の状況に思いを馳せながらも電話等での連絡がとれず、家族等の安否が確認されるまではさぞ心配であつたと推測されます。



＜全日本 ARDF 大会 3.5MHz 部門＞

10 月 23 日

クラス	順位	コールサイン	所要時間	探索個数
OM	1 位	J F 5 M E D	1 時間 32 分 18 秒	5 個

＜全日本 ARDF 大会 144MHz 部門＞

10 月 24 日

クラス	順位	コールサイン	所要時間	探索個数
YL	4 位	J F 5 I C B	1 時間 32 分 18 秒	4 個
	6 位	J J 5 C Y N	1 時間 41 分 00 秒	4 個
	11 位	J I 5 V W A	1 時間 24 分 00 秒	3 個
	失格	J F 5 E A P	2 時間 22 分 36 秒	2 個
OM	6 位	J F 5 M E D	1 時間 58 分 05 秒	5 個
OT	7 位	J H 5 L Y W	1 時間 11 分 22 秒	4 個
	16 位	J I 5 X T P	1 時間 22 分 46 秒	4 個
	19 位	J F 5 I C A	1 時間 28 分 40 秒	4 個 (5)
	37 位	J G 5 O B X	1 時間 34 分 31 秒	3 個

たこと推測されます。

幸い、参加者の中で家や家族に大被害にあったという方はいなかったようでスタッフも含め関係者一同安心したということでした。

今年は全日本大会では初めての試みとして、3.5MHz 部門がエキシビジョン大会として前日の 23 日(土)に実施されました。

3.5MHz 部門及び 145MHz 部門におけるクラブからの参加者の成績は左記の通りでした。

ARDF3.5MHz 帯エキシビジョン大会参戦記

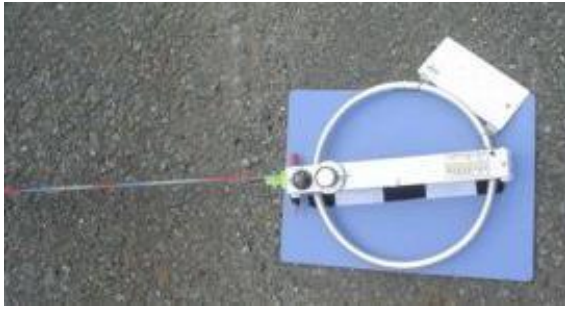
J F 5 M E D

10 月 23 日(土)天候晴れ。

まず参戦記を語る前に、3.5MHz 帯における ARDF は私自身特別なこだわりを持っています。過去を振り返って見れば、正式な競技会として西日本では 2 回しかおこなわれていない上、いずれも 144MHz 帯との同時開催(3.5 と 144 の全てを見つけてくる競技で西日本ではこれをスーパーフォックスと呼んでいる)だけであり、3.5MHz 帯のみの単独の競技会への参加となれば東日本エリアまで遠征した上での参加しか方法が無く、年間の競技数が 2 ～ 3 回程しか無いのが今の現状です。この様な状態のまま、ここ 10 年近く 3.5MHz 帯にお

いては、一部の熱狂的な愛好家達が繰り返し競技会をおこなっていた訳ですから、東日本エリアの人たちとのギャップが今大会では多々に見受けられました。

受信機に至っても同じで、世界大会で主流になっている直径 30 センチ前後のループ型のアンテナを使った受信機を自作したものが中部、関東地方では大半を占めています。受信機の構成を良く解らない方もいると思いますのでループアンテナについて少し述べますので参考にしてください。



まずループアンテナとは、円状に導線がぐるぐると輪のように巻かれたアンテナです。見た目はあたかも「蜘蛛の巣のような感じ」だと思っていただけで結構です。構造は基本的に通常のラジオに内蔵されているバーアンテナを大きくしたものです。バーアンテナとはコイル(磁性体に導線をぐるぐる巻いたもの)で、送信されてくる電波の変化に

応じて電流が流れます(ファラデーの電磁誘導の法則)。電波(電磁波)の変化によって磁力線がコイルの内空をもっとも多く通過する向きで感度が最大になります。基本的にコイルの断面積が大きいほど刻々と変化する磁場に対する感度・効率がよくなるので内蔵の小さなバーアンテナよりも表面積の大きいループアンテナの方が微少電波を拾いやすくなります。又、垂直系のホイップアンテナとかけ合わせる事により指向性(カーディオ特性)が出ますので、その利点を活かす意味合いからループアンテナが好まれるのだと思います。ARDF 競技で競技者が使うループアンテナの場合、この蜘蛛の巣のようなアンテナを手にとって走る(歩く)事は形や大きさから不便でなりません。そこで、内径が 10 ミリ程度のアルミ管を 30 センチ前後の円状に曲げ、その中に導線を 5～6 回通した極小ループと言ったものを使うのが ARDF 競技では一般的です。

次に送信機ですが、送信機は全国的にはミズホ通信(株)の[FTXX-3.5]と言う送信機をJARL 及び一部の特殊クラブが使用しています。競技上のルールでは出力は 3W～5W の範囲と定められておりそれに準じた作りになっています。関東方面ではこれ以外に韓国製の送信機を使用している所もあります。韓国製の場合、3.5/144 双方の送信機を一台のケースに収めた作りとなっており電波形式や出力も世界大会の規格に合わせていますのでより実践的な練習及び大会がおこなわれています。

アンテナは垂直偏波の無指向性アンテナであるとルールには記載されています。世界大会に出場された選手の話によれば、今回の世界大会ではアンテナは 8 メートルの単線とその中間ぐらいの位置に延長コイルを用いて運用していたそうです。今回の全日本大会では、1 メートル前後のパイプを地面に打ち込み、グラスファイバー性釣り竿の先端に 5 メートル前後の単線をくくりつけたアンテナをそのパイプに差し込んで設置していました。アースはパイプから取っていましたので、設置場所の状態によってはアースが上手く取れず十分に SWR が落ちない事もありそうでした。各 TX を同一条件に近づける意味合いからも、大会を開く上では設置者には入念な準備とテストを徹底させることが競技を円滑におこなう上で不可欠だと思いました。

ちなみに我が ARDF 香川で 3.5MHz の競技会をおこなう際のアンテナスタイルはグラスファイバーの釣り竿の先端に 5 メートルの単線をくくりつけ、それを垂直に打ち上げたものを用いようと思っています。良好に SWR を落とすために 3 メートル前後の



単線を複数本、アンテナの周囲に展開し、アンテナチューナーで同調をとる(カウンターポイズ)方法を採用しています。頻繁に移動運用をしている局にはおなじみのスタイルかも知れませんね。

では、話を本題に戻します。

競技会場での受付を早急にすまし、運営案内スタッフの指示で受信機材のチェック及び受信の公開練習をする時間を若干設けて頂くことが出来ました。試験電波は 3.570MHz 近辺で、MO の連続送信であると聞かされました。対比に参加される選手の面々は、下は小学生から上は 70 歳前後の方まで様々であり、私自身今まで参加して来たどの地方大会や競技練習会でも会ったことがない方も多数参加されていました。後で解った事なのですが 3.5MHz 帯のみ参加という選手も多々いたのです。公開練習においては受信機自体初めて手にするといったビギナー選手も多く見受けられ、初めて使う受信機の使い方を熱心にベテラン指導者から教わっていました。私自身もその場に居合わせた初心者には気軽に受信機の使い方を解りやすく指導したつもりです。初めての ARDF 参加者も少しは不安要素を取り除く事ができて競技を純粋に楽しめたのではないかと思います。

開会式ならびに選手宣誓をおこない記念撮影の後、5 分程度徒歩の移動。大きな建物の裏手に受信機置き場ならびにスタート地点が設けられていました。「受信機はスタート順に区分された所に保管するように」とスタッフに指示されました。一度保管すると指示があるまで触ることが出来ないという徹底ぶりで、近年の地方大会ばかり参加していた私としてもさすがお手本となる全日本大会だと改めて初心に戻り、審判団の厳格さに感心しました。

記事の都合上、次回クラブ報との連載にさせていただきますのでご了承ください



**前年度までの会費が未納の方は早急に納入をお願いします。
また、平成 16 年度会費につきましても早急に納入をお願いします。**

会報等印刷発送だけで会費の半分以上を使っています。会費が未納の方は納入してくれている会員の方に負担をかけています。ぜひよろしくお願いします。

JARL 香川クラブ報

発行責任者	JA5AHM	天野 英弘
編集者	JH5LYW	三好 伸幸
	JH5WMN	山口 博司
	JE5PBO	岡田 光